



長野県神社庁報 第105号

平成19年8月1日 発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
(長野市箱清水1-6-1 電話026-232-3355 FAX026-233-2720)



6月2日 安曇野市にて



写真提供：大糸タイムス(株)

日誌抄		2
庁長就任挨拶	齋藤 吉仁	4
総代会長就任挨拶	行田増次郎	4
長野県神社庁 新役員、神社総代会役員、支部長、 支会長、教化部役員		5
特集 伊勢の神宮 お木曳 恩頼を体感した御奉仕の旅 かたじけなさに涙こぼるる聖地 「御木曳行事」に参加しておもうこと お木曳にボディビルダーが行く	片山 井出 行則 宮澤 千尋 滝澤 明道	6
伊勢神宮「式年遷宮」問答集		10
第六十二回式年遷宮の祭典と行事予定		12
新任神職の横顔		15
御造営フォトニュース		16
本庁表彰式 辞令 寄附者顕彰		18
平成十九年度神社庁歳入歳出予算書 平成十九年度災害救助慰藉予算書		20
暑中見舞い		21

日誌抄

(平成十九年 月 日)

六月

一 月

十九日 神社庁新年初役員会
二三～二四日 東海五県神社庁事務研修会
二四～二五日 別表・特別神社宮司会
二九日 階位證並びに任命辞令
伝達式

二 月

二九日 教化部合同委員会

六日 監査会
六日 正副庁長会
六～九日 長野県遺族会
沖繩「信濃の塔」
慰霊祭奉仕

九日 式年遷宮奉賛会支部本部
募財事務説明会
十六日 大麻暦頒布終了奉告祭

三 月

二日 理事会
五日 支部長会
並大麻暦頒布終了奉告祭
會議

七～八日 教化部研修旅行
十二日 臨時理事支部長合同會議
十五日 神社庁長懇話会
十六日 神社庁長会
二十日 第七十回定例協議員会

二六～二七日 東海五県神社庁教化神政連
合同會議

二三日 神職身分二級上並二級
並任命辞令伝達式
二六、二七日 第十三回少年少女のつどい
〔子供参宮団〕
二九日 神政連県本部代議員会

四 月

六日 理事会
任命辞令伝達式
新旧職員辞令伝達式



十三日 東海五県神社庁臨時評議員会
臨時協議員会
二十日 不活動神社対策に関する
連絡協議会
二七日 正副庁長会

五 月

九日 東海五県神社庁連合総会
評議員会

十日 東海五県神社庁連合総会
理事・支部長合同会議
十四日 新旧役員歓送迎会
一八、一九日 第六二回神宮式年遷宮
御木曳行事御奉仕の旅



二二日 全国神社総代会代議員
社本庁表彰式
二三日



二二、二五日 神社本庁定例評議員会
二五日 教化部役員会

六 月

一、二日 皇太子・同妃両殿下御来県
〔第18回全国「みどりの愛
護」のつどい〕に御臨席
の為、皇太子・同妃両殿下
御来県



四日 任命辞令伝達式
庁報編集委員会
七日 東海五県神政連臨時会議
十二日 神政連本部長会
十三日 神政連中央委員会
神政連事務局長連絡会
十三、十四日 中信地区四支部連絡協
議会
十四日 教・祭祀委員会
教・教化委員会

十八日 教・青少年対策推進委員会
教・調査委員会
十九日 監査会
教化部役員会
神政連県本部臨時会合

一八、二二日 東海五県中堅神職研修会
二二、二三日 神社庁事務担当者会
二二、二三日 東海五県中堅神職研修会
精算会並参事会
二五、二六日 地方祭祀指導者研究会



二六日 日本女性の会
小野田町枝会会長を囲む会



就任の御挨拶

長野県神社庁 庁長 齋藤 吉仁



常日頃、皆様方におかれましては奉仕神社の護持運営はもとより、神社神道興隆の為それぞれのお立場での献身的な御努力に対し、深甚なる敬意を表すると共に、長野県神社庁事務の推進に当たりましても、格別なる御理解を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

平成十九年三月二十日開催の、長野県神社庁第七十回定例協議員会・役員改選に当たり、一期目の私が庁長として何一つ満足に出来得なかつ

就任の御挨拶

長野県神社総代会 会長 行田 増次郎



本年三月十五日開催県神社総代会に於いて県総代会長再任の推薦を賜り、固よりその器でないことは自認しているところですが身の程を弁えずお引き受けした次第であります。

このうえは県神社庁のご指導の許 神社総代役員始め多くの皆様の暖かいご協力を引き続き願ひ度う存ずるところであります。

さて平素は氏神様の御隆昌に加え斯道興隆に氏子挙げてご尽瘁戴いておられ誠に感謝を申し上げますが、昨年神社庁六十周年記念事業協賛活動には格段の労を願ひ誠意ある認識の表現を賜り感謝を申し上げ

たにも係わらず、再び御推薦を受けましたからには、微力浅才に鞭打つて、この重責を全うしなければならぬと覚悟を新たに致し、倍旧の御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

幸い気心の知れた、伴野・藤井両氏が副庁長に御選任されましたので、誠に心強く、共に力を合わせ、既に始まっております、第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉賛会長野県本部の御奉賛の真心を結集できる様、神職総代神社関係者が一九となって努めて参る所存でございますので、よろしく御理解と御協力の程御願ひ申し上げます。

げ、加えて平成二十五年第六十二回伊勢神宮式年遷宮の募財活動にある現在、ご遷宮の意義を深くご理解下され特段のご活動を請い願う次第であります。又県神社総代会の年間事業として大麻の増体推進運動を展開しております、その目標とするところは『総代一人一体の増体』であります。

日本民族の総氏神様であるお伊勢様の大麻を戴ける有り難さを篤と感じる氏子でありたいことをご理解下されてこの趣旨の賛同を伏して懇願申し上げます。

私達は神の恵みと祖先の恩に感謝する崇高な神道に生きる者として現今の「日本の心」感謝、報恩、尊敬等々の忘却を嘆き神社界として今何をすべきかを考え乍ら総代会会長再任のご挨拶といたします。

本年度より三年間の任期で選任されました。

長野県神社庁役員

庁長 齋藤 吉仁 (長野)
副庁長 伴野慎一郎 (南佐久)
理事 藤井 茂信 (上水内)
水澤 光男 (北佐久)
矢澤 龍一 (長野)
工藤 康正 (上小)
有賀 寛典 (諏訪)
近藤 政彰 (飯伊)
宮澤 民雄 (南安曇)
宮澤 正廣 (大北)
宮川 鎮雄 (更級)
高橋 勸 (飯水)
等々力 満 (南安曇)
瀧澤 基 (長野)
宮坂 信廣 (松塩筑)

長野県神社総代会

会長 行田増次郎 (北佐久)
副会長 重野 充男 (南安曇)
理事 北村 善一 (上水内)
湯澤 廣雄 (飯田市)
松井 英衛 (更級)
鮎澤 敬正 (諏訪)
滝澤 正博 (上小)
藤村 吉彦 (松塩筑)
依田 忠一 (北佐久)
金村伊三郎 (上伊那)
監事

支部長

南佐久 南佐久 武原 彦海
北佐久 上小 宮原 邦彦
諏訪 上伊那 宮坂 清満
飯伊 飯曾 近藤 政彰
木曾 松塩筑 大澤 三三
南安曇 山田 充春
大北 竹内 直彦
更級 宮川 鎮雄
更井 竹内 忠男
上高井 山岸 清人
下高井 片山 茂樹
上水内 宮下 俊樹
飯水 高橋 勸基
長野 瀧澤 基

支会長

南佐久 美齊 清
北佐久 行田 増次郎
上小 滝澤 正博
諏訪郡 大久保 日出男
諏訪市 宮坂 日隆
岡谷市 小口 順久
茅野市 牛山 晴雄
上伊那 上伊那 伊三郎
下伊那 下伊那 伊三郎
飯田市 湯澤 廣雄

教化部役員

木曾 松塩筑
南安曇 重野 充彦
大北 松澤 徳雄
更級 松井 英衛
更埴 湯原 喜衛
須高 涌井 清熙
中内 頓所 昭司
上水内 北村 善一
飯水 村上 力彦
長野 加藤 彦

教化部長 藤井 茂信
祭祀担当 有賀 寛典
教化担当 宮川 鎮雄
調査担当 水澤 光男
青対担当 宮澤 正廣

祭祀委員長 武居 哲也
副委員長 前澤 三喜夫
教化委員長 豊城 憲和
副委員長 小島 直季
望月 義幸
松井 秀吾
林井 幸昭
勝山 幸昭
保山 幸昭
井出 勉
唐沢 光忠

特集

伊勢神宮
御木曳行事

本年、五月・六月に行われた御木曳行事には、全国各地から多くの一日神領民が参加した。長野県から参加した奉曳団の特集記事を掲載します。

恩頼を体感した御奉仕の旅

伊勢神宮式年遷宮奉賛会長野県本部

事務局員 片山 求

五月十八日・十九日の二日間、県内各地より伊勢の地に、奉仕団総勢二百余名が集まりました。そして一日神領民として、奉曳出発点より「エンヤ」の掛け声と共に遷宮御用材を外宮敷地内へと無事曳き納めて参りました。

今回の「第二次御木曳行事」には齋藤吉仁庁長を始め、伊勢神宮式年遷宮奉賛会長野県本部仁科惠敏本部長（長野県商工会連合会会長）にもご参加戴きました。

十八日早朝より、県内各地を出発した長野県奉仕団六台のバスは、恵那峡サービス



エリアに集結した。一行は定刻伊勢の地に着き、内宮正式参拝をし、明日の御木曳行事御奉仕のために、「二見興玉神社」に於いて「無垢塩草」での不浄祓いを受けました。

二日目は、齋藤庁長・仁科本部長を先頭に、揃いの法被と鉢巻の白一色で奉曳出発点に集合しました。第一班として千名の「エンヤ」の掛け声も高らかに三時間の奉曳御奉仕を致しました。

外宮敷地内に無事納めまして、おもてなし会場に着きましたら、冷えた伊勢茶や振舞酒が用意されておりましたので、奉仕団の面々は謹んでもてなしを受けました。

一行は「伊勢うどん」の昼食をいただき、おかげ横町を自由散策した後、県内各

地に向けて、帰途に着きました。

この二日間天候にも恵まれ、奉仕後のおもてなしも、大神様の恩頼を体感出来た御奉仕の旅でした。

最後になりましたが、県本部事務局は、御遷宮の御事、皆様方により一層のご協力をお願いし、報告と致します。

かたじけなさに涙こぼる聖地

南佐久支部 新海三社神社奉曳団 井出 行則

前回、平成五年の御遷宮の時は、兼務神職あり神職として係りを持つことなく、仕事中、車の中のラジオで遷御のニュースを聞いたのみであった。あれから十余年が過ぎ、自分が今次御遷宮の諸行事に御奉仕の機会をいただいていることは有り難い極みである。

二年前の上松町での御杣始祭では御神木の側近くで神事と伐採を拝した。初夏の山の木々の息吹に包まれた斎場で、御神木を見つめ乍、只ひたすら杣人の斧を振り下ろす音に集中していたあの清浄な時間、陽光、空気、虫や鳥の音など全て総じて心

